



第63回卒業式 旅立ちの気持ちを「YELL」にのせて

卒業式の答辞に続けて、今年の3年生は「YELL：混声三部合唱」を歌います。私立の入試が終わった今週から、3年生は、パート別合同練習をしています。「YELL」は、今年度のNHK全国合唱コンクールの課題曲です。この歌詞には、卒業を迎えた15歳の気持ちが込められています。自分たちで選んだこの難曲に、今、一生懸命取り組んでいます。時間のない中、パートリーダーを中心に学年の歌声を作り上げています。この歌にどのような想いを込めて歌いたいのか、式に集ってくださる方に、どのような気持ちを伝えたいか、3年生全員が自分の思いを書きました。歌詞とともに、3年生のメッセージをいくつか紹介します。

YELL

詞・曲／水野良樹

「わたしは今 どこに在るの」と 踏みしめた足跡を 何度も見つめ返す
枯葉を抱き 秋めく窓辺に かじかんだ指先で 夢を描いた

翼はあるのに 飛べずにいるんだ ひとりになるのが 恐くて つらくて
優しいひだまりに 肩寄せせる日々を 越えて 僕ら 孤独な夢へと歩く

サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれの夢へと僕らを繋ぐ YELL
ともに過ごした日々を胸に抱いて 飛び立つよ 独りで の 空へ

僕らはなぜ 答えを焦って 宛ての無い暗がりにも 探すのだろう
誰かをただ 想う涙も 真っ直ぐな 笑顔も ここに在るのに

永遠など無いと 気づいたときから 笑い合ったあの日も 唄い合ったあの日も
強く 深く 胸に 刻まれていく

だからこそあなたは だからこそ僕らは 他の誰でもない 誰にも負けない
声を 挙げて “わたし”を 生きていくよと
約束したんだ ひとり ひとつ 道を選んだ

サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれの夢へと僕らを繋ぐ YELL
いつかまためぐり逢うそのときまで 忘れはしない誇りよ 友よ 空へ

僕らが分かち合う言葉がある ころからころへ 声を繋ぐ YELL
ともに過ごした日々を胸に抱いて 飛び立つよ 独りで の 空へ

今まで出会えたすべての人に感謝の気持ちと、旅立つ決意を込めて歌いたいです。つらいとき、苦しいとき、必ず手をさしのべてくれた友達、迷っているときいつも支えてくれた家族、先生方。この3年間、私は本当にたくさんの人と出会いました。そして、たくさん支えてもらいました。その感謝の気持ちと、これからも成長し続ける決意をこの歌に込めたいです。(女子)

学年全体で頑張っ取り組んだ体育祭・野外活動・合唱祭・職場体験学習・高校訪問・修学旅行など、最高の思い出を思い出しながら歌いたいです。高校に進学し、自分の夢の実現に向かって進むという気持ちを伝えたいと思います。(女子)

3年間通った矢野中学校の、教室・部室・階段・廊下…そのあちこちに、自分の足跡があることに気づきました。それは、決して大きく目立つものではないけれども、確かにそこに在ります。その、自分の足跡をたどりながら、みんなの足跡を思い出しながら唄いたいです。(女子)

これから義務教育を終えて、みんなそれぞれの人生を歩んでいくことになります。みんなが離ればなれになるのは悲しいことだけれども、独りで歩かなければ成し遂げられないことがあります。だから、今はともに過ごした仲間と別れを告げ、自分たちの未来を見つめて進んでいくべきだと思います。(男子)

中学校3年間、苦楽を共にした仲間と別れなければならない。それはとても寂しいことだ。しかし、それは悲しいものではなく、297名の一人一人がそれぞれの道を歩み始めるスタートでもある。だとしたら、そのスタートを悲しむのではなく、応援をするという気持ちで迎えたい。中学校生活を共に過ごした大切な仲間へYELLを送りたい。(男子)

3年間お世話になった学校や先生方、友達に感謝の気持ちを込めて歌います。これから、矢野中学校を支えていく後輩に応援する気持ちを込めて歌います。後輩のみなさん、3年間という短い中学校生活の残りの時間を大切に使ってほしいです。(女子)

今までの中学校生活3年間の思い出を思い出しながら歌う。友達・親・先生から教わったことを一つ一つかみしめながら。全員で何かをするということは、もうないと思うので、後悔しないように歌う。この歌詞のように、サヨナラという言葉はYELLだと思って、友達や先生に伝えたいです。(男子)

力強く、一人の力で歩いていけるようになりたい。この矢野中学校で、クラスのみんなや部活の仲間と、とても楽しかった。そんな思い出を胸に、みんなとは違う人生を歩んでいく。クラスのみんな・部員・友達・後輩・先生、みんなにありがとうを伝えたい。(男子)